

若い世代ほど農林漁業体験に興味 ～農山漁村の魅力は「新鮮な食材」と「豊かな自然」～ ＜日本公庫・平成26年度上半期消費者動向調査＞

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）農林水産事業が7月に実施した平成26年度上半期消費者動向調査で、「今後の農山漁村との関わり方に関する意識」について調査したところ、農山漁村で余暇を過ごしてみたいという割合は、56.4%となり、「何をして過ごしてみたいか」を聞いたところ、若い世代ほど農林漁業の体験に対する意向が強いという結果になりました。また、農山漁村の魅力については、「地元の新鮮な食材」を選択する割合が最も高く、次いで「豊かな自然環境」という結果となりました。詳細は以下のとおりです。

＜調査結果のポイント＞

○ 50代以上を中心に農産品の購入を通じて農山漁村を応援(図1)

今後、農山漁村とどのように関わっていきたいかを聞いたところ、50代以上の年代層を中心に、全体で35.9%が「地域の農産品などの購入を通じて応援したい」という回答となった。また、20代では、「農作業を体験したい」という回答が25.0%と高い割合となっている。

○ 農山漁村の魅力は新鮮な食材と豊かな自然(図2)

農山漁村の魅力について聞いたところ、「地元の新鮮な食材」が68.8%で最も高く、次いで「豊かな自然環境」が65.5%という結果となり、この2点が農山漁村の主な魅力として認識されていることが明らかとなった。

○ 若い世代ほど農林漁業の体験に興味(図3、4、5)

今後、農山漁村で余暇を過ごしてみたいか聞いたところ、「是非過ごしてみたい」が7.2%、「機会があれば過ごしてみたい」が49.2%で、これらをあわせた56.4%が「過ごしてみたい」という意向を持っていることがわかった。

「過ごしてみたい」という意向のある人に対し、何をして過ごしてみたいかを聞いたところ、若い世代ほど「農林漁業の体験」への意向が強いという結果がみられた。特に20代では、32.9%と最多回答になっており、図1の調査結果とあわせて、若い世代の農林漁業体験への興味の高さが現れる結果となった。

また、40代以上の高い年代層では、「自然散策」や「直売所等での特産品の購入」といった回答の割合が高くなっている。

そのほか、生産者の顔が見える食品（直接販売している又は生産者の情報がわかる食品）の購入経験については、77.9%が「ある」と回答し、今後の購入意向については、83.3%が「購入したい」という意向を持っていることがわかった。

調査時期	平成26年7月1日～7月8日
調査方法	インターネットによるアンケート調査
調査対象	全国の20歳代～70歳代の男女2,000人（男女各1,000人）

図1 今後の農山漁村との関わり方

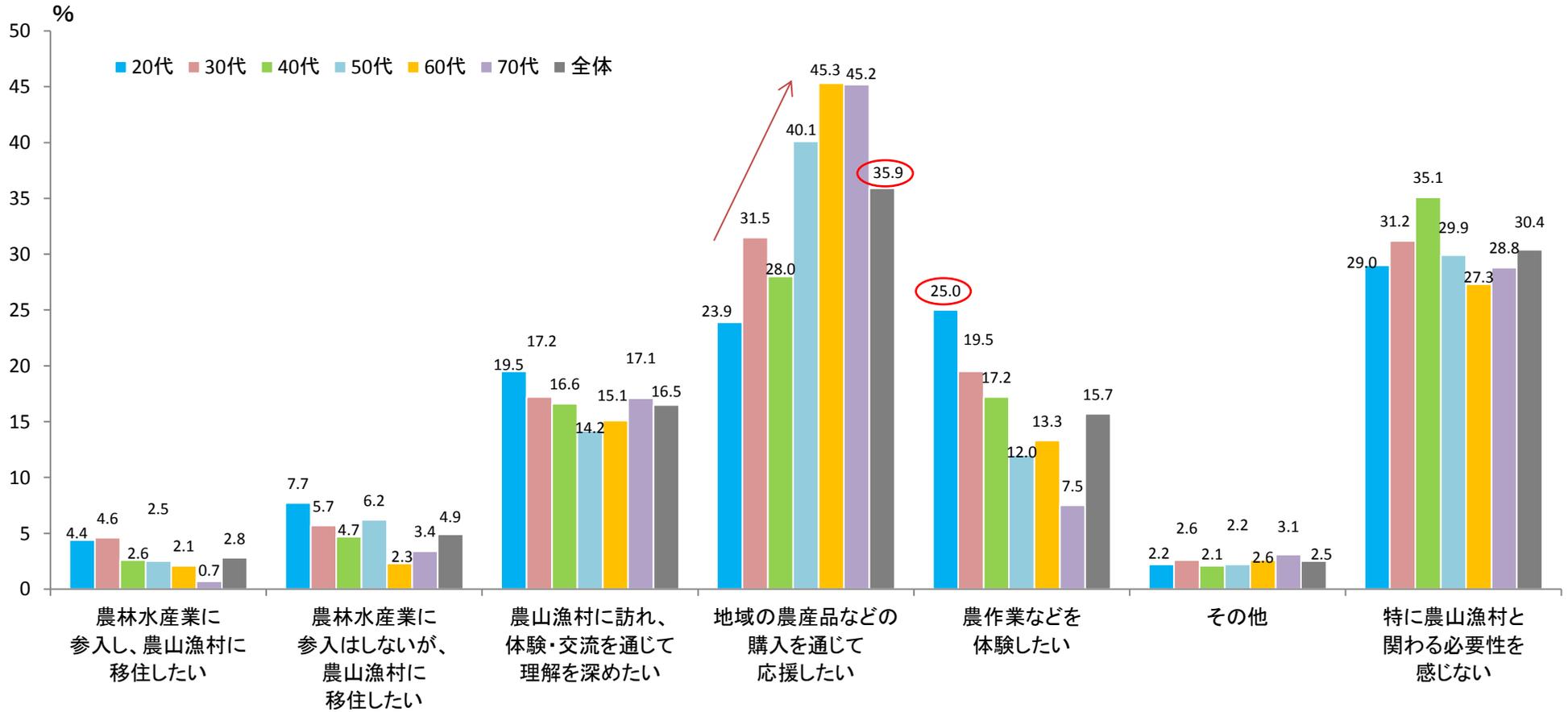


図2 農山漁村の魅力(主なもの2つまで回答)

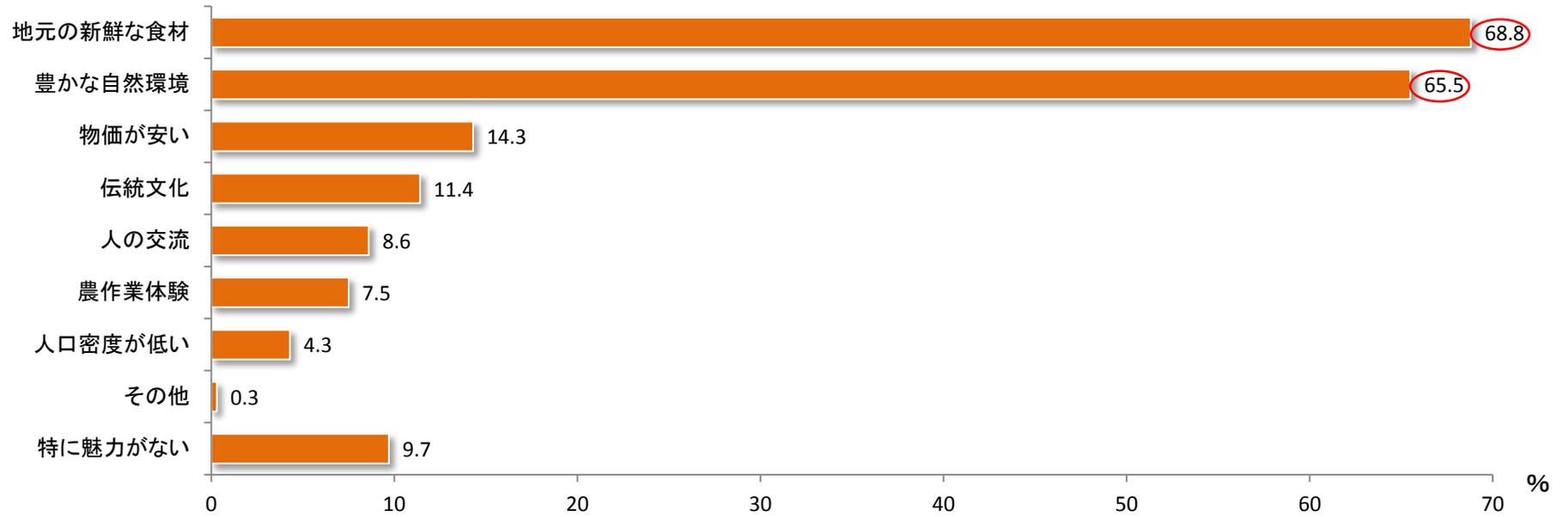


図3 今後、農山漁村で余暇を過ごしてみたいか

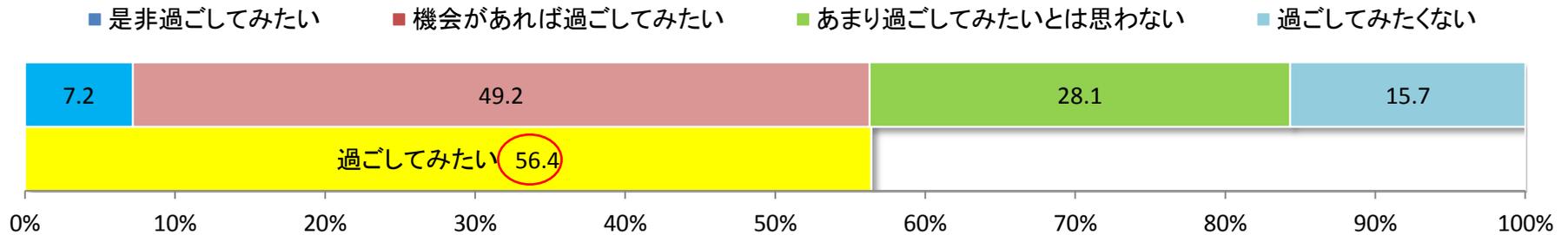


図4 何をして過ごしてみたいか(図3で「過ごしてみたい」回答者、主なもの2つまで)

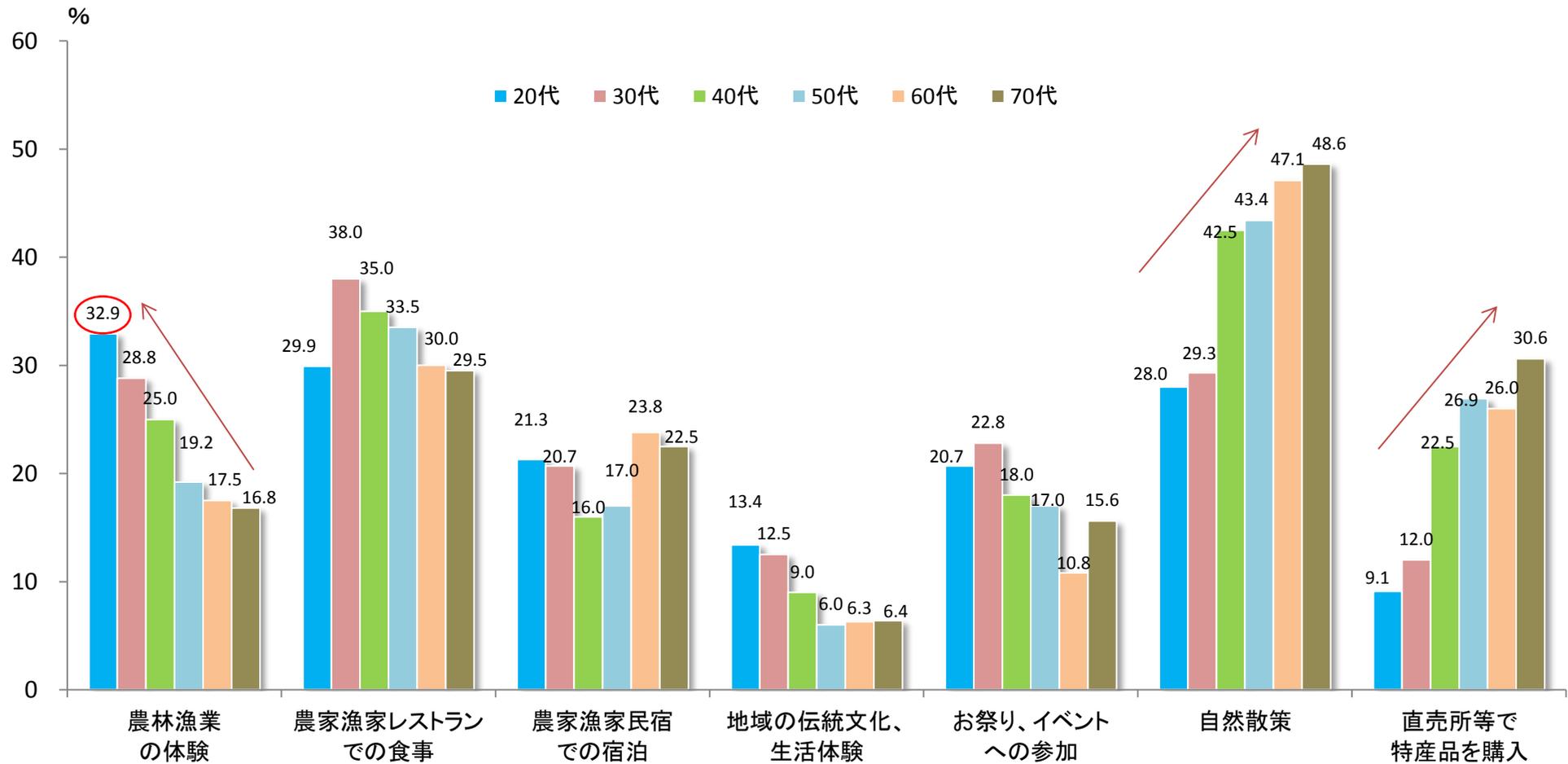
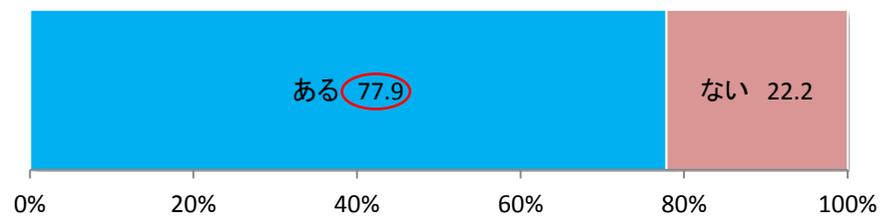


図5 生産者の顔が見える食品の購入について

【生産者の顔が見える食品の購入経験】



【生産者の顔が見える食品の購入意向】

